

日本赤十字社三重県支部救護班第2班を派遣

能登半島北部珠洲市を中心とした避難所の状況評価、巡回診療、在宅訪問を実施

【派遣期間】

令和6年1月13日(土)～1月18日(木)

【派遣職員】

医師1名、看護師長1名、看護師2名、主事2名、支部職員1名の7名編成

【状況】

救護班第二班は石川県の能登半島最北端に位置する珠洲市を中心に活動させていただきました。珠洲市は震源から最も近い市で、壊滅的なダメージを負った地区が今なお存在する所でした。地面の隆起、陥没によって道が途絶し、救護活動を阻まれながら、避難所のアセスメント、巡回診療を行いました。発災後約2週間ということもあり、被災者の中にはストレスを抱える方も多くおられました。しかし、活動を重ねるごとに顔と顔と合わす回数も増え、徐々に信頼を得られるようになっていき、被災地に笑顔を届ける事が出来ました。

救護班の車両に保健師を乗せ一緒に在宅訪問を行う珠洲市で初の試みに、救護班第二班が選定されました。道路の損壊が強く、個人宅前まで車両で接近することが出来ず、徒歩で在宅訪問しました。保健師によるスクリーニングと、救護班による診察、薬剤の持ち合わせにより、迅速に必要な薬剤を処方することが出来ました。

活動結果：1月14日：訪問数1施設、診察数7人、処方数4人、1月15日：訪問数2施設、診察数16人、処方数12人、1月16日：訪問数2施設、診察数5人、処方数2人、1月17日：訪問数3施設、診察数12人、処方数8人、緊急搬送1件、合計：訪問数8施設、診察数40人、処方数26人



救護班と保健師が協力し在宅訪問する様子



打ち上げられた船の横を通過する救護車両